

中国有数の金融機関で 高度なシステム運用を実現した「JP1」

江蘇省農村信用社連合社 ▶ <http://www.jsnx.net/>

経済成長が続く中国の金融機関では、業務量の増加にともない

金融サービスを支えるITシステムの運用管理が一段と高度化・複雑化しています。

そこで中国農村部に展開する金融機関 農村信用社の中でも全国トップの成長を記録している

江蘇省農村信用社連合社は、データセンターにおけるITシステム運用と

メンテナンス管理レベルを高めるため、日立の統合システム運用管理「JP1」を導入。

大量のジョブ管理とシステムの性能/稼働監視を自動化し、運用負担の低減とサービスレベルの向上を実現しました。

Open middleware case study

農村信用社でトップ成長を 誇る江蘇省農村信用社連合社

国内の運用管理ソフト市場において、14年連続トップシェア※1の評価をいただいている統合システム運用管理「JP1」。その信頼性や品質は、著しい成長を続ける中国にも着実に浸透しています。2011年にJP1の導入に踏み切ったのは、経済先進地域として知られる上海経済圏の一角を占める江蘇省の金融機関である江蘇省農村信用社連合社（以下、江蘇農信）です。同社は1つの市連合社※2と82の県/市連合社の共同出資で設立されたもので、農家向けの金融サービスをベースに、県/郷レベル※3の経済発展をサポートする役割を担っています。

江蘇農信は2001年の設立以来、地域の金融機関として経営力を強化し業務は迅速に発展、2010年6月末時点での貯金残高は7,121億元と、その増量幅は全国農村信用社の中で1位にランキングされました。また貸付金の残高も5,196億元となり、トップの成長を維持しています。

こうした業務量の拡大に対応するため、江蘇農信が保有するデータセンターである江蘇省情報決算センターはIT基盤と業務システムの強化・整備に注力。現在は省内61の銀行と2つの村/町銀行、2,700余りの営業所のシステムを統括する45の業務システムを運用しています。その取引件数は1日平均約443万件、取引金額は1日平均約554億元に達し、「技術者個人の努力や熱意だけではハイレベルな運用の維持が難しいことがわかってきました」と、江蘇省情報決算センター 副社長の傅曉三氏は振り返ります。

従来、江蘇農信の業務システムは、それぞれ独立した稼働監視ソフトによって運用されていました。このため、膨大な数のサーバやストレージの稼働状況を見極め、トラブルの芽を事前

に摘み取るのは非常に困難な状況でした。また、統計やレポートといった業務システムの定型処理も手動作業に頼っていたことから、処理スピードだけでなく、操作ミスやオペレーション品質のバラツキなどにより、江蘇省情報決算センターが掲げる運用・メンテナンスレベルを堅持し続けるのは難しい状況になってきたのです。

※1 テクノ・システム・リサーチなどの調査による

※2 農村信用社が連合した会社

※3 中国の行政区分。省級、地級、県級、郷級があり、市には「省級市」「地級市」「県級市」がある

JP1の導入で業務効率と品質がレベルアップ

江蘇農信はITシステム運用とメンテナンスの品質を高めるツールを模索する過程で、同社のIT構築を担当するパートナー企業 南京紫金社から日立のJP1を提案されました。そしてJP1が持つシステム運用と性能/稼働監視の自動化・効率化といった特長とその実績を評価して採用を決定。南京紫金社と日立の現地法人※4は、同社の幅広い要求項目をくみ取りながら、ジョブ管理製品「JP1/AJS2」※5とアベイラビリティ管理「JP1/PFM」※6を適用した統合管理プラットフォームを構築することに成功したのです。

南京紫金社の技術ディレクターを務める仲澄氏は、「JP1は日本において十数年にもわたる開発と運用の実績があります。このため技術とノウハウの蓄積が豊富で、細かい部分のチェックまで網羅されています。例えば、日々のミッションをもれなく実施するため、担当者はどのようなプロセスで業務を行えばいいのか、システムに変更が発生したら、どのように設定し直すべきかなど、細かな業務に対応したノウハウテンプレートが用意されています。このため、すぐにレベルの高い運用管理業務を行うことがで

江蘇省農村信用社連合社

事業概要 全国農村信用社の改革試行拠点であり、江蘇省政府の許可の下、中国人民銀行の承認を得て2001年9月19日正式に開業した省レベルの金融機関。農家向けサービス提供をベースに農業の産業化を推進、県・郷レベルの経済発展と社会進歩をサポートする役割を担っている。設立以来、業務は迅速な発展を遂げ、2010年6月末時点で、江蘇省農村信用社の貯金残高は7,121億元にのぼり、貯金の増量幅は、全国農村信用社の中で1位を記録している。

Open middleware case study

きるのです」と江蘇農信にJP1を提案した理由を語ります。

JP1の導入後、江蘇農信のシステム運用・メンテナンス作業は、手動から自動へと切り替えられました。同時に、複数に分散した環境でメンテナンスを行っていたシステムを総合管理プラットフォームに集約することで、運用・メンテナンスの効率と品質はさらに高いレベルへと引き上げられました。

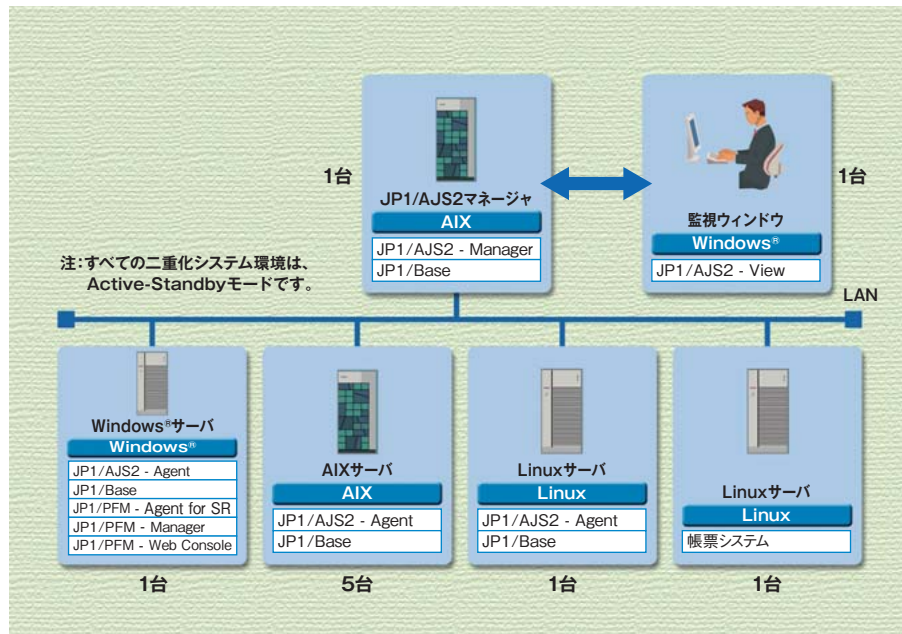
江蘇省情報決算センター 稼働保障部 副經理の邵中峰氏は、「これまで運用・メンテナンスを行う際には、バッチ処理の再編成作業が多数発生していました。再編成は論理関係が複雑で、広範なプロセスに影響を与えるため、負荷のかかる作業でした。しかしJP1の導入により、ジョブ管理が自動化されたため、担当者は複雑な変更作業から解放され、操作ミスも防げるようになりました。さらに、サーバのCPUやメモリーの利用状況、業務プロセス上で発生しているイベントやログの解析なども、すべて一元的に把握できるようになり、業務効率と品質が大幅に向上しました」と語ります。

※4 日立信息系統(上海)有限公司
 ※5 JP1/Automatic Job Management System 2
 ※6 JP1/Performance Management

プロアクティブな運用管理を実現

中国には「上医は未病を治す」という言葉があります。“名医は病が未だ生じないうちにそれを見極め治す”という意味で、システム運用に当てはめれば、“サーバの稼働状況やジョブの処理状態を監視することで、性能劣化やトラブルの予兆を早期に発見・対処すること”になるでしょう。江蘇農信の金融技術部門はJP1/AJS2とJP1/PFMが実現するこうした機能をフルに活用し、システム運用状況の可視化と一元化によるプロアクティブな運用管理を実現したのです。

「45もの業務システムをすべて手動で管理・監視しようとする、ミスも出やすく安定稼働を確保できません。そこでわれわれは



江蘇省農村信用社連合社のシステム構成図

JP1を利用して、システム全体の稼働状況を画面に見やすく表示することで、異常な傾向を早期に発見し、問題が顕在化する前に撲滅できる体制を整えたのです」と邵中峰氏は語ります。

このほかにも江蘇農信は、JP1をホストの金融システムに接続して業務データを迅速に抽出し、各連合社に提供するサービスも行っています。従来この作業は手動でスクリプトを作成し、データを抽出する方法で行っていました。しかし連合社ごとにニーズが異なり、抽出データの要求も多様であったため、時間がかかり、管理も不便であったといいます。これもJP1が実現した業務の自動化と効率化の一例となります。

江蘇農信は2011年から「ISO20000品質規格認証プロジェクト」を立ち上げ、ITサービスマネジメントの品質向上を実現するための体制強化を進めています。今回導入されたJP1は、その活動の推進を強力に支援するツールとして、「運用・メンテナンス管理のレベルアップに大きな効果があった」と、評価されています。

中国やインド、東南アジア諸国などでも、ビジネスの進展にともなって高信頼なシステム運用や業務の自動化、効率化が強く求められています。日立はJP1のグローバル提供を今後も積極的に推進し、海外で活躍する日系企業やローカル企業の幅広い問題解決を強力にサポートしていきます。

お問い合わせ先

記事に関しては、(株)日立製作所 ITプラットフォーム事業本部 TEL.03-5471-2592
 製品に関しては、HMCC(日立オープンミドルウェア問い合わせセンター)

☎0120-55-0504(利用時間 9:00~12:00 13:00~17:00 土・日・祝日・弊社休日を除く)
 携帯電話、PHS、一部のIP電話など上記フリーダイヤルがご利用いただけない場合:TEL.044-850-9293

■ 情報提供サイト

<http://www.hitachi.co.jp/jp1/>